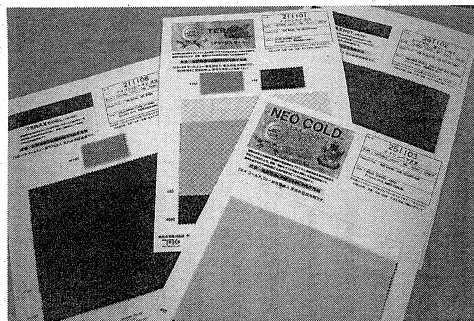


特集 インナー・レグウェア 厳しさの中に堅調なアイテムも

インナー・レグウェア市場は、厳しい状況が続いている。売り場の縮小や天候不順、物価高による節約志向などが影響しているとみられる。全体では厳しさが残るものの、堅調な動きを示すアイテムは少なくない。各社はさまざまな角度で開発・提案を行い、今後の可能性を探る。



さまざまな素材に幅広く対応

赤外線に変換、空気中に放出する。赤外線として放出すること、太陽光線が持つ赤外線との相殺による遮熱機能も持つ。
「ネオコー」も基本

生地専門商社の東光商事のグループ企業、東光リミィ(大阪市西区)は、近年の猛暑に向け、繊維上の熱を赤外線として放出する生

東光リミィ

地加工「テラックス」シリーズのアップルを強化している。

猛暑対策加工のアップル強化

原理は同じで、用いる鉱物を水晶にしたことで加工部分が透明になり、生地上で目立ちにくい。

接触冷感など夏向けの機能を持つ生地との組み合わせもできるほか、織物や編み地、素材の天然系、合繊系など生地の素性を問わず加工できることもメリットとなる。

これまでゴルフやビジネスのインナーシャツでの採用実績があるほか、ジャケットや帽子の裏地などでも採用事例がある。

東光商事グループの連携を生かし、製品OEM、生地の備蓄販売など同加工を軸に幅広い供給体制をとる。